

# 令和3年度 所管事務調査報告書

令和3年6月16日

湯沢市議会議長 柏原久寿様

教育民生常任委員長 沓澤正雄  
(公印省略)

令和3年度所管事務調査について、次のとおり報告します。

## 記

調査課題	全国的な新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響による小中学校休校措置を受け、急速に普及が進む教育現場への ICT 機材導入が、本市においても今年度から本格的に始まった。これは、コロナ禍以前から文部科学省が提唱する GIGA スクール構想における「学びの保障」を軸とした取組の一環で、実際の学校情報環境の整備状況を調査、導入初期の実状（経過、進捗等）を把握するため、教育民生常任委員会として所管事務調査を実施した。		
調査期間	令和3年6月16日(水) 午後2時から午後4時		
調査内容	月日	調査事項	調査箇所
	6月16日(水)	学校情報環境推進事業について	湯沢市立湯沢西小学校
出席者	○教育民生常任委員会【5人】 委員長：沓澤正雄、副委員長：兼子正寛、委員：大山豪、高橋達、高橋克己 書記：鹿角将良、鵜沼明日美 ○委員外議員【1人】 傍聴：高橋 榮 ○市(当局)【3人】 教育部長：佐藤 司、学校教育課長：寺田玲子、学校教育課学事班主任：宮原惇 ○湯沢西小学校【4人】 校長：佐藤芳一、教頭：銭谷郁雄、ICT 推進教諭：飯塚崇宏、ICT 支援員：橋本瑞穂		

## 教育民生常任委員会 所管事務調査要旨

日 時 : 令和3年6月16日(水) 午後2時から午後4時  
場 所 : 湯沢市役所4階会議室43  
調査事項 : 学校情報環境推進事業について

### ◆調査事項〔学校情報環境推進事業について〕

#### 本事業の背景と、調査の目的・趣旨

全国的な新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響による小中学校休校措置を受け、急速に普及が進む教育現場へのICT機材導入が、本市においても今年度から本格的に始まった。これは、コロナ禍以前から文部科学省が提唱するGIGAスクール構想における「学びの保障」を軸とした取組の一環で、実際の学校情報環境の整備状況を調査、導入初期の実状（経過、進捗等）を把握するため、教育民生常任委員会として所管事務調査を実施した。

#### 調査方法

所管の委員会の委員が、現地視察と担当部から説明を受け質疑応答を行った。

#### 内容・結果の概要

- [視察] 主に、各学年の授業内においてタブレットと電子黒板を用いた授業の様子を見学した。また、現在のタブレットの管理手法について説明を受けた。
- [当局説明・質疑応答] 事業の進捗状況等について説明を受け、視察後、授業担当の先生を交え、質疑応答を行った。（詳細は下記参照）

#### 内容・結果の詳細

##### [視察]

①見学した授業は以下の通り（説明資料より抜粋、3-3は3年3組）

3-3 社会「農家の仕事」 / 4-1 算数「工夫して計算しよう」 / 5-1 学活「あったか言葉を広めよう」 / 5-2 社会「暖かい土地の暮らし」 / 6-3 総合的な学習の時間「修学旅行の計画を立てよう」

②タブレットは一人一台に名前をつけず（所有とせず）、収納する充電棚のどこに入れても良い合理的な管理方法を採用していた。

##### [当局説明・質疑応答]

①当局説明は以下の通り（一部抜粋）

- ・本年4月に、授業に入る先生全員にGoogle Workspaceの1日研修を受講させた。
- ・市教委から「授業におけるICT活用について」手引きを渡し、活用例を示した。
- ・「誰でも気軽に使える身近なツール」として使ってもらっている、現時点で1日1回10分程度使用させ慣れてもらい、学年末には使用を1日2回に増やすことが目標。

②質疑応答は以下の通り（一部抜粋）

Q. 一人一台端末配置に伴う問題点や課題は何か。

A. 使い始めで、児童生徒個々のパソコンの操作能力に差が出てくること、授業で活用しながらスキルアップも図っていることで時間がかかることが課題。今後慣れていくことで解消が図られるものと考える。

Q. 教員の研修の機会や情報共有について、どのような状況か。

A. 昨年度までは各校の代表者に教育用ソフトの研修会を行なった。各校で伝達講習を経た後、4月当初に先述の1日研修を行った。現在は必要に応じてICT推進教諭や支援員、市教委担当が校内研修会を実施している。情報共有は各校のICT推進教諭で作られる「ICT推進教諭部会」で行っている。また、月1回の支援員の打ち合わせにおいて支援員と市教委で情報共有を行い、内容を各校に伝達している。

Q. 今後のICT活用についての展望は。

A. 現在はログイン、検索、データ保管等基本動作の習熟を進めており、徐々に「ノートに書いた自分の考えを内蔵カメラで撮って提出する」「グループ毎に1つのページを共同で編集する」等の活動に活用していくことを目指している。

◆調査を終えて（所感）

児童のタブレットの使用状況は、操作スキルに学年差は認められるものの、だいぶ手慣れた様子であった。児童生徒が文房具がわりに使えるようになる第一歩の状況を見学することができた。導入初期の段階でも、授業の活用度において教員の工夫が随所に見られた。特に湯沢西小学校においては、県のICTを活用した授業改善事業の指定校となったため、より一層一歩先んじた取り組みに力が入ることが考えられる。今後、中学校の取組状況も調査して参りたい。

急な視察打診にもかかわらず、快く受け入れていただいた当局はじめ、湯沢西小学校のスタッフ一同には、この場を借りて感謝申し上げたい。